

「学力向上ポートフォリオ(中学校版)」

学力向上目標

- 基礎的、基本的な知識及び技能の習得
 - ・令和3年度全国学力・学習状況調査(国語)の「読む能力」、(数学)の「数学的な技能」に関する調査で、平成31年度自学校平均正答率より3pt向上させる。
- 思考力、判断力、表現力等の育成
 - ・令和3年度全国学力・学習状況調査(国語)の「書く能力」、(数学)の「数学的な見方や考え方」に関する調査で、平成31年度自学校平均正答率より3pt向上させる。
- 主体的に学習に取り組む態度の涵養
 - ・学校評価「家庭学習に取り組んでいる」の肯定的な回答の割合を令和2年度の値より5pt向上させる。

具体的な手立て

- 数学においてドリルパークを活用し、くり返し学習する機会を設定する。
- 若木タイムをとおして、読書活動を推進する。ビブリオバトルの取組をとおして本を読むことに対する生徒の関心を高める。
- 「5分でできる学習課題」を各教科で出題し、家庭での学習習慣の定着を図るとともに、課題が「できる」達成感を味わわせ自己肯定感を高める。
- 「さいたま市『アクティブ・ラーニング』型授業」の6つの学習プロセスを踏まえ、「自力解決」「協働解決」に焦点をあてた、学習活動を行う。
- 総合的な学習の時間で、SDGsについて取り組み、日常生活で学校の学習を生かせることを考えさせ、実践できる資質を育てる。

結果

- ・令和3年度全国学力・学習状況調査の国語では、全国平均との差が-2.8pt(H31)から-1.6pt(R3)となり向上が見られた。数学では、全国平均との差が-2.8pt(H31)から-5.2pt(R3)となり下回った。
- ・令和3年度全国学力・学習状況調査(国語)の「読む能力」は、全国の平均正答率と同じであった。(数学)の「数学的な技能」は、全国の平均正答率より3.2pt下回った。
- ・令和3年度全国学力・学習状況調査(国語)の「書く能力」は、全国の平均正答率から2.2pt下回り、(数学)の「数学的な見方や考え方」は、全国平均正答率から6.4pt下回った。
- ・学校評価「家庭学習に取り組んでいる」の肯定的な回答の割合は、令和2年度の値より4pt下回った。

今年度の振り返り・次年度に向けて

・令和3年度全国・学力学習状況調査において国語の平均点が向上していることから、本校において実施している読書活動等（「若木タイム」）の取組により、生徒の「読むこと」への抵抗感が減少し、問題の理解力が向上したため、平均点の向上がみられたと考えられる。一方、数学の平均点が全国平均を下回っていることから、基礎的な内容を繰り返し学習する機会の設定と、家庭での学習習慣を一層身に着けさせる取組が必要であると考える。

・令和3年度全国学力・学習状況調査の結果からを踏まえて、以下の点について継続して取り組んでゆく。

- （1）数学において、小中9年間をとおして「ドリルパーク」を活用し、繰り返し学習する機会を設定する
- （2）家庭学習の習慣を身に着けさせる工夫を行う。
- （3）読書等の「読む活動」を行う機会の充実を図る。
- （4）ICTを活用した活動と、ノート等を書く活動をバランスよく配置した授業形態の工夫を図る。